

互いに支え合える社会へ

河津町立河津中学校 2年 高木 さち

私は一才三か月の時に川崎病を発症しました。高熱が五日以上続き、やっと熱が下がってほっとしていたら、発疹がでてきたようです。その母は特に心配はしておらず、念のため病院に受診してみたら、医師から今すぐ順天堂病院に行くように言われたそうです。また、

「もしかしたら、これから運動ができなくなるかもしれない。」

と言われ、母は泣きながら急いで病院に向かったそうです。そして私はそのまま緊急入院し治療を受けました。私は早く治療を受けられたため無事に症状が治まり、後遺症が残らなくてすみました。その後は運動制限もなく今も大好きなバスケットをすることができます。しかし、母は今でもその時のことを思い出すと、胸が苦しくなると話していました。また、その時の入院費や治療費はとても高額で、領収書を見た母はとても驚いたと言っていました。しかし食事以外は全て税金が負担してくれて、改めて税金に心から感謝し、安心したと母は言っていました。そして私は、それから六年間通院し、再発することなく今も元気に過ごしています。

私はこの税について考える機会があったので、改めて幼い頃にあった出来事を聞き、初めて今私が元気に過ごせているのは税金のおかげで、たくさんの人に支えられている、ということを実感しました。だから私は、今当たり前のように健康でいれることに感謝し、その気持ちを忘れないようにしたいと思いました。また学校に通い、勉強できることや、地域の環境整備や交通整備など、私たちの身の回りのさまざまなものに税金が使われていることに気づきました。

税を納めることは「お金を取られてしまう」と、マイナスに考えている人が多いかもしれませんが、しかし、自分が払った税金で誰かの命を救ったり、誰かのために役立つことができます、そしてたくさんの人に、安心や安全を届けることができます。だから私は「税を納める」ということは「お金を取られてしまう」と思うのではなく、「誰かを救うことができる」という価値観に変えていければいいなと思います。そのためには「いつも税金のおかげで生活できている」、「税金のおかげで救える命がある」ということを知ってもらう必要があると思います。私たちは一人では生きていけません。だからこそみんなが互いに支え合える社会を作っていかなければいけません。だから私はたくさんの人に税金の大切さを伝えていきたいです。そして自分自身も税金に感謝しながら、しっかり納税の義務を果たせる大人になりたいと思います。